

新型コロナウイルスまとめ

このペーパーは 2023 年雑誌 Newton 4 月号に掲載された「新型コロナウイルスの 3 年間」（監修 片山和彦 北里大学大村智記念研究所ウイルス感染制御学教授）を要約したものです。

2019 年 12 月新型コロナウイルスが確認され、3 年余りが経過した。2023 年 2 月 4 日の時点で、世界の感染者数は約 7 億 5400 万人、死亡者数は約 682 万人である。日本国内では約 3274 万人、死亡者数は 6 万 9477 人となっている（2023 年 2 月 5 日現在）。

新型コロナウイルスは、最初に中国で確認されてから、いくつかの変異株が確認されている。「アルファ株」、「ベータ株」、「ガンマ株」、「デルタ株」、「オミクロン株」等がある。症状は、せきや発熱、頭痛など、風邪やインフルエンザとよく似ており、初期のころは重症化や死亡に至る割合が比較的高く、高齢者や基礎疾患のある感染者を中心に、重い肺炎などにつながる事例が少なくなかった。

主にデルタ株によって生じた第 5 波では、80 歳以上の感染者のち 10.21% が重症化し、7.92% が死亡したという。その後、重症化率や死亡率は低下した。オミクロン株による第 7 波中の 2022 年 7 月～8 月では、80 歳以上の感染者で重症化したのは 1.86%、死亡したのは 1.69% だったという。季節性インフルエンザでは 80 歳以上の重症化率が 2.17%、死亡率は 1.73% とされており、それを下まわっている。

これは、あとに出現した変異株ほど病原性が弱いということではない。片山和彦教授によると、ワクチン接種や感染の経験によって多くの人が免疫を獲得したほか、治療薬の開発など医療体制がととのったことの影響が大きいということです。

コロナウイルスは「RNA ウイルス」の一種で、遺伝物質として一本鎖の

RNA(リボ核酸)をもっている。一般的に RNA ウイルスは、DNA(デオキシリボ核酸)を遺伝物質にもつウイルス (DNA ウイルス)にくらべて変異しやすく、とりわけ一本鎖の RNA ウイルスは変異しやすいとされる。

